

# わかくさ

学 校 通 信

青梅市立若草小学校

令和6年2月29日

第825号

## 新芽

副校長 宮部 吉一

桜のつぼみも膨らみ始め、暖かな日差しを感じる季節となりました。「一月往ぬる二月逃げる三月去る」という言葉のとおり時間の流れをととても早く感じます。今年度も後一か月を残すのみとなりました。

ところで、先日ある児童から「副校長先生は、毎日何をしているのですか。」と質問をされました。確かに、担任の先生のように授業を行う訳でもなく、校長先生みたいに全校が集まる場で、話をするということもありません。(たまには、ありますが・・・) 見かけることはあってもどんな仕事をしているのか、想像がつかないのだなと思いました。

私が毎日している仕事に、朝児童が登校してくる前に校舎内から校庭を含む敷地内全てを巡回して、危険はないか安全を確認するというものがあります。その巡回中にはいろいろな発見があります。学校は変化がないように思われがちですが、実は、一年を通して大きく変化しています。最も大きな変化は、植物の変化です。季節がもう少し進みますと、あらゆる場所から植物の小さな「芽」が、まるで緑の絨毯のように地面から吹き出してきました。そして、その「芽」は人間が手を加えなくても、その後どんどん成長していきます。自然の力に驚かされます。

しかし、子供の成長は、自然の営みに任せてという訳にはいきません。大人の意図的・継続的な働きかけが重要です。子供は誰もが、何かしらの「芽」をもっています。しかし、それを大人が無理に伸ばそうとしても伸びるものではありません。「伸びよう」とか「伸びたい」という子供の強い気持ちがあれば、その「芽」は成長しません。その「芽」は、子供がやる気になったことで芽生え、夢中になって取り組むことで、たくましく大きく伸びていくのだと思います。

学校では、全ての子供たちに、この一年の学校生活を振り返らせ、これまでの頑張りにも自信をもたせたい。そして、新年度に向け新たな目標(「芽」)をもたせ、大きく羽ばたく心の準備をさせたいと考えています。ご家庭でもお子様の成長と一緒に喜んでいただきつつ、子供たちを温かく見守り、「芽」を春の日差しのような暖かさで包んでくださればと思います。

さて巻頭で話題にした、ある児童からの質問について、私は「みんなが安心して学べ、成長できる学校になるよう後ろから支えているんだよ。」「例えば、立派で綺麗な花が咲くように、花壇の土を耕すような感じかな。」と答えました。

いよいよ6年生は巣立ちの時を迎えます。新しい扉を開こうとする子供たちへ、心からのエールを教職員一同で送り、門出へのはなむけにしたいと思います。今月もどうぞ、保護者及び地域の皆様方には、教育活動について、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。